

箕面・墓の谷の森に生息していたメスジカ（撮影　大島和男）

箕面市粟生の通称「墓の谷の森」（約5ha）で1986年から1989年までメスジカ1頭が頻繁に目撃された。宅地開発のため周囲から完全に隔離されたクヌギーコナラ林等の里山を利用して暮らし，地元観察会の象徴的存在だった。ある時期から住民の給餌で人馴れし，その犬の散歩にあわせて森から出てくるほど特定の飼犬と親しくなったり，一方で複数のはね罠が発見されるなど，話題となった。

開発と隔離，餌付けや密猟等，北摂における野生動物と人間社会との関係を象徴する“事件”であった。